

物語 『ヤービの深い秋』 シリーズ2巻目



梨木香歩/作 小沢さかえ/画 福音館書店

秋の自然をたっぷりと感じられます

ふわふわの毛につつまれた二足歩行するハリネズミのよう
な不思議な生き物ヤービ。秋が深まり、冬ごもりの準備で大忙
しのヤービたちは、食べると不思議な夢を見るというまぼろし
のキノコ、ユメミダケがややこし森にあるということを知り、
ユメミダケを探す冒険に出発します。

同じ頃、フリースクールの生徒ギンドロと、ウタドリ先生たちも、ある不思議な手
紙をきっかけに、ヤービたちが向かっているややこし森へと向かいます。

冷たい風が吹き、赤や黄色の葉っぱがハラハラと落ち、ドングリや木の実がなり、
空にはワシやタカが飛んでいる。そんな秋の自然をたっぷりと味わうことができる本
です。そんな秋のなかで、ヤービは、「秋のきもち」を知ることができたようですよ。

「秋のきもち」ってどんな気持ちなのでしょう？

シリーズ1巻目の季節が夏の『岸边のヤービ』も所蔵しています。

物語 『ぼくの、ひかり色の絵の具』 西村すぐり/作 大野八生/絵 ポプラ社

芸術の秋

伝えたい気持ちを言葉にすることが苦手なユク。ユクは、絵を描くことが得意でし
たが、写生の時間に納得のいかない絵を描かされたことで、傷つき、自分の描いた絵
を引きさいてしまいます。

しかし、ユクは、花が好きな少女ハネズから励まされ、伝えたい
想いや言葉を絵で表現していきます。すると、しだいに、絵を
描くことの喜びを思い出していききました。

絵を描くことをとおして、ユクを理解してくれる人が増え、心
の通じ合う友だちもできました。ユクの成長を見守ることのできる
さわやかな物語です。



物語 『バッテリー』 あさのあつこ/作 佐藤真紀子/絵 教育画劇



スポーツの秋

シリーズ1巻目

天才ピッチャーとして小学生の頃から活躍していた原田巧は、
中学入学前に、祖父の住む岡山に帰ることになりました。そこ
で、巧とバッテリーを組みたいと熱望するキャッチャーの長倉
豪と出会います。豪は、巧の剛速球をわずか5球でキャッチ
することができ、お互いに運命の出会いだと感じます。

巧は、自信家な性格と、思春期ならではの大人として扱われない感情から、誰に
でも強く当たってしまうという弱い面がありました。

小さい頃から体が弱いが巧のことを一番理解してくれている弟の青波や、野球は楽
しむことが一番大切だと言う元野球部の監督をしていた祖父、心が広く巧を受け止め
てくれる豪との関わりをとおして、巧は成長することができるのでしょうか？

シリーズ全6巻の名作です。

物語 『ぼくは本を読んでいる。』 ひこ・田中/著 講談社

読書の秋

家の「本部屋」でみつけた、両親が小学生の時に読んでいたはずの本。小学5年生
のルカは、親に隠れてこっそりその本が読みたくなりました。『小公女』や『あしなが
おじさん』といった古典作品を、分からない言葉を辞書で引きながら、登場人物の気
持ちに寄り添うことで、深く読み解くことの面白さに気づいていきます。

ルカの考察とともに、古典作品を読むことができるので、本
の感想を共有出来ているかのように楽しく読むことができます。
「本好きでなくても、読書はできる。」。そんなことを教えてく
れる1冊です。

